

授業「養護概論」の事前学習における学生の学び
- 保健室見学と養護教諭へのインタビューを導入して -

(養護教諭 / 事前学習 / 保健室見学)

玉田明子*・原 祥子**・吉田由美***

Students' Learning Gained Through Observation
of School Health Rooms and Interviews With Yogo Teachers

- Introduced as Prior Learning for an "Introduction to School Health & Nursing" Course -

(yogo teachers / prior learning / observation of school health room)

Akiko TAMADA*, Sachiko HARA** and Yumi YOSHIDA***

In order to facilitate learning among future students, the present study aimed to clarify what students learned from Prior Learning for an "Introduction to School Health & Nursing" course. Subjects were 22 second-year nursing students who enrolled in the course. Data for analysis were collected in the form of reports submitted by the students following Prior Learning.

Regarding the contents of the reports, the most frequent contents concerning "duties of Yogo teachers" were "health guidance and health study" and "health consultation activity". The least frequent content was "prevention of infection". As a result of the analysis of students' impressions and considerations using the method of Berelson, 14 categories concerning [learning gained through observation of Yogo teachers' practices] were identified. Furthermore, three categories concerning [significance of the observation of school health rooms and the utilization of these observations in the future] were identified.

Prior Learning facilitated the students' realization of the significance of being a Yogo teacher, the objectives of and contents of Yogo teachers' responsibilities, the diversity and difficulty of Yogo teachers' responsibilities, and that being a Yogo teacher can be a satisfying and rewarding job. Moreover, Prior Learning increased the students' motivation and enthusiasm to learn more.

本研究の目的は、授業「養護概論」の事前学習での学びの内容を明らかにし、今後の課題を検討することである。対象は、2年次に「養護概論」を選択した看護学科の学生22名である。学生が事前学習後に提出したレポートを分析対象とした。記述された内容を養護教諭の職務内容にしたがって分類した結果、最も多かったのは、「保健指導・保健学習」と「健康相談活動」であり、最も少なかったのは、「伝染病の予防」であった。また、Berelson, B. の内容分析法を用いて、感想および考察の記述内容を分析した結果、[保健室見学による学び]と[保健室見学の意義と今後への活用]の2つの大カテゴリに分類され、前者では14のカテゴリ、後者では3つのカテゴリが抽出された。学生は、事前学習により養護教諭の存在意義、職務の対象、職務内容、仕事の多様性・困難性とともによりがいを理解し、今後の学習への動機付けや意欲の向上にもつながっていることが明らかになった。

はじめに

近年、子どもたちを取り巻く問題は深刻化し、いじめ・暴力・不登校・精神的問題など学校教育現場の抱える課題は多様化している。それに伴い、学校における養護教諭と保健室の存在がより重要になっている¹⁾。1997年の保健体育審議会答申において、「養護教諭の新たな役割、求められる資質」が提言され、1998年の

島根大学医学部 Faculty of Medicine, Shimane University

*臨床看護学講座 Department of Clinical Nursing

**地域看護学講座 Department of Community Health Nursing

***元臨床看護学講座

Formerly of the Department of Clinical Nursing

中央教育審議会答申においても、心の居場所としての保健室について提言された。これらを受けて、今後、養護教諭に求められる知識と技術は、質・量ともに増加すると考える。

A大学医学部看護学科では、このような時代の要請に応える養護教諭の養成をめざし、一種免許状取得のための養護に関する科目として「養護概論」（選択制）を開講している。「養護概論」では、養護教諭の活動をイメージし、理解することが重要である。また、堀内ら²⁾は、養護教諭志向を高めるためには、養護教諭のあり方について、講義などで学ぶだけでなく実際の活動に触れることを通して養護教諭のやりがいや喜びを実感できるような場を設けることが必要であろうと述べている。よって、授業「養護概論」の事前学習として、養護教諭の職務の実際を学ぶという目的で、各学生の母校の協力を得て、保健室見学と養護教諭の指導を受ける機会を設けた。

そこで、本研究では、「養護概論」の事前学習での学びの内容を明らかにし、今後の課題を検討することを目的とした。

研究方法

1. 調査対象

対象は、2006年度前期に養護教諭一種免許状取得のために「養護概論」を履修したA大学2年生22名である。分析対象は、22名の学生が事前学習後に提出したレポートである。

2. 「養護概論」について

「養護概論」は2単位（90分×15回）の講義科目であり、2年前期に開講している。

授業の目的は、養護の理念、養護教諭及びその活動について学び、児童・生徒・学生・教職員を対象とした健康管理・健康教育の概要を理解することである。なお、「養護概論」は教員職員免許法施行規則の「養護概説」に該当する科目である。

3. 事前学習の概要

「養護概論」履修前の2月上旬に、履修予定の学生を対象として、「養護教諭の職務の実際」を学ぶことを目的とした事前学習についてのオリエンテーションを実施した。

学生は、春休み中に母校（小学校、中学校、高校）の養護教諭または知っている養護教諭1名に連絡をとり、保健室見学と養護教諭へのインタビューをすることについて承諾を得る。承諾が得られた後に学校保健室を訪問し、保健室での仕事の実際を見学し、文部科

学省が主催する養護教諭の研修会で示された養護教諭の職務内容（9項目）³⁾を参考にしながら、養護教諭の職務の実際について養護教諭にインタビューする。また、養護教諭の仕事のやりがいや工夫していること、困難なことについてもインタビューする。学生には、養護教諭の活動に支障がないように配慮すること、個人を特定できる情報は入手しない、学校名などをレポートに記載しないなどの個人情報保護に関することについて指導した。見学終了後、見学およびインタビューから学んだ内容とそれに対する感想・考察をレポートにまとめて提出することを課している。

4. 分析方法

1) 養護教諭の職務内容の学び

レポートの内容において、養護教諭の職務内容（9項目）³⁾に関する記述の有無を著者らで確認し、9項目のうち記述されている項目を抽出した。

2) レポートに記述された「感想・考察」の内容

レポートに記述された「感想・考察」の内容に対しては、Berelson, B. の内容分析⁴⁾を行った。記録単位は、保健室見学と養護教諭へのインタビューから「感じたこと、学んだこと」が記述されている主語と述語からなる1文章とした。文脈単位は、記述内容の全体の文脈が理解できる文節、いくつかの文節が構成する文章全体であり、文脈単位を1データとした。分析対象とする記述を意味内容の類似性に従い分類し、その分類を忠実に反映したカテゴリ名をつけた。分類とカテゴリ名は著者らが協議の上で決定した。

5. 倫理的配慮

「養護概論」の授業が終了し、成績評価終了後に、事前学習として実施した保健室見学後のレポート分析に関する研究への協力を学生に依頼した。研究の趣旨、目的、プライバシーの保護、研究への参加は個人の自由意思であり、研究協力の諾否が成績に影響しないこと等を説明し了解を得た。特に、感想・考察の分析においては、学生個人が特定されるようなデータは一切用いないことを約束した。

結 果

1. 保健室見学の状況

保健室見学の概要を表1に示した。

訪問保健室数、レポート数は各々24であった。小学校3校、中学校8校、高校13校で高校が多かった。1名の学生は、小学校、中学校、高校の保健室を訪問していた。訪問は、2月20日から4月3日の間に実施しており、1校あたりの訪問時間は最短20分から最長630

表1 保健室見学の概要と看護教諭の職務内容の学び

学生	訪問先	訪問時間	看護教諭の職務内容 (: 記述あり)												
			学校保健情報の把握	保健指導・保健学習	救急処置及び救急体制	健康相談活動	健康診断・健康相談	学校環境衛生	学校保健活動への参画及び一般教員の保健活動への協力	伝染病の予防	保健室の運営				
1	小学校	30分													
2	小学校	30分													
3-(1)	小学校	240分													
3-(2)	中学校	540分													
4	中学校	30分													
5	中学校	90分													
6	中学校	90分													
7	中学校	20分													
8	中学校	45分													
9	中学校	記載なし													
10	中学校	90分													
11	高校	210分													
12	高校	20分													
13	高校	65分													
14	高校	60分													
15	高校	90分													
16	高校	60分													
17	高校	60分													
18	高校	60分													
19	高校	60分													
20	高校	150分													
21	高校	120分													
22	高校	40分													
3-(3)	高校	395分													
		235分													
記述レポート数			10	19	18	19	13	13	13	13	11	5	17		
記述割合 (%)			41.2	79.2	75.0	79.2	54.2	54.2	54.2	54.2	45.8	20.8	70.8		

表2 レポートに記述された「感想・考察」の内容(【 】内は文脈単位)

大カテゴリ	〔保健室見学による学び〕	【126】
小カテゴリ	1.《養護教諭は一人一人の子どもと向き合い、子どものために働く仕事》	【21】
記述例	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの健康を考えて、子どものために働く」 ・「現代ならではの問題(いじめ、不登校、喫煙、避妊など)に対して生徒一人一人と向き合う」 ・「一番大切なことは、生徒に寄り添って何があっても生徒の味方であること」 	
小カテゴリ	2.《成長する児童・生徒の健康管理に関わる養護教諭の存在の大切さ》	【20】
記述例	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもたちに将来的な健康観を育ませる」 ・「学校における母親のような存在」 ・「学校全体の健康管理と保健衛生管理の中核」 	
小カテゴリ	3.《養護教諭の仕事の意外な多さ・困難さ》	【17】
記述例	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分が考えていた養護教諭の仕事が実際の養護教諭の仕事のほんの一部であることを知った」 ・「多くの生徒、先生に対して時には一人で養護教諭の仕事をごんやしていかねばならない重圧は大変なもの」 	
小カテゴリ	4.《連携の必要性(学校内、地域、家庭)》	【13】
記述例	<ul style="list-style-type: none"> ・「養護教諭とは、他の先生や地域の方としっかり向き合っていくことも大事な仕事であるのだと気づいた」 ・「学校内だけでなく家庭にも目を向け、広い視野で対応していく必要がある」 	
小カテゴリ	5.《養護教諭の仕事のやりがい》	【12】
記述例	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの成長に関わるのは楽しい」 ・「難しい仕事ではあるが、そのぶん喜びややりがいも大きい」 ・「養護教諭という仕事に誇りと使命感を持っておられると感じた」 	
小カテゴリ	6.《養護教諭は健康に関する専門職》	【9】
記述例	<ul style="list-style-type: none"> ・「保健指導はもちろんのこと、家庭や地域と連携して健康づくりを推進するなど、専門職としての職務の内容は本当に幅広い」 ・「学校における健康のスペシャリストとしての自覚を持って職務を遂行する必要がある」 	
小カテゴリ	7.《自己研鑽の必要性》	【7】
記述例	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの病気、価値観、考え方も変化していく、養護教諭はその変化に敏感に反応し適応していかなければならない」 ・「医療知識を十分に兼ね備えた養護教諭が必要」 ・「心理学がわからないといけない」 	
小カテゴリ	8.《保健室は児童・生徒の居場所》	【5】
記述例	<ul style="list-style-type: none"> ・「保健室は児童が安らぎを感じることができる場」 ・「保健室は教室という人がたくさんいる場所から少し離れた位置に存在し、生徒にはその距離が必要」 	
小カテゴリ	9.《居場所としての保健室経営の難しさ》	【5】
記述例	<ul style="list-style-type: none"> ・「どこまで生徒の来室を許可するのか」 ・「健康なすべての生徒を受け入れていけば、保健室運営の支障になる」 	
小カテゴリ	10.《児童・生徒と信頼関係を築くことの重要性》	【5】
記述例	<ul style="list-style-type: none"> ・「養護教諭に最も必要なのは、感性を若く持って生徒を信じること」 ・「生徒が保健室を訪ねてきて、養護教諭の先生との会話を聞いていると、生徒が先生を信頼していることがよくわかった」 	
小カテゴリ	11.《コミュニケーションの必要性》	【4】
記述例	<ul style="list-style-type: none"> ・「人間だから合う、合わないがあるけれど、話をしてみる」 	
小カテゴリ	12.《養護教諭に対する他の教員や保護者の理解の乏しさ》	【4】
記述例	<ul style="list-style-type: none"> ・「教員や保護者の中には養護教諭を軽視し、教師としてみてくれないときにはとても辛い思いをされている」 	
小カテゴリ	13.《性別・発達段階に適した指導内容・方法の工夫》	【3】
記述例	<ul style="list-style-type: none"> ・「学年によって、つまり心身の発達段階に応じて、内容をかえる工夫により、それぞれが正しい知識や命の大切さを理解できる」 	
小カテゴリ	14.《養護教諭の仕事は教職員の健康にも関わる仕事》	【1】
記述例	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職員に何か問題が出たら、一番影響を受けるのは子ども。だから、私は教職員の心身の健康も大事にする」 	
大カテゴリ	〔保健室見学の意義と今後への活用〕	【25】
小カテゴリ	1.《保健室見学の意義》	【14】
記述例	<ul style="list-style-type: none"> ・「『生徒と教師』という枠がない状態で養護教諭の先生と話したのは初めてで、とても新鮮だった」 ・「養護教諭の特殊性を理解することができた」 ・「自分が保健室でやってもらっていた様々なことが養護教諭の仕事であったことに初めて気づいた」 	
小カテゴリ	2.《養護教諭の仕事への関心の高まり》	【6】
記述例	<ul style="list-style-type: none"> ・「人と触れ合うことのできる仕事でとても魅力的だった」 ・「一層養護教諭になりたい思いが高まった」 ・「大変勉強になり、そしてさらに養護教諭の仕事に興味が持てた」 	
小カテゴリ	3.《保健室見学の今後への活用》	【5】
記述例	<ul style="list-style-type: none"> ・「インタビューで学んだことを頭に置いて、これからの養護教諭の授業を受けていきたい」 ・「今回の体験をこれからの実習などに役立てていきたい」 ・「日々の生活の中でも今回の学習を無駄にしないようにしたい」 	

分で、その平均は117.9分であった。

2. 養護教諭の職務内容の学び

表1に、学生がレポートした養護教諭の職務内容を示した。最も多かったのは「保健指導・保健学習」と「健康相談活動」で、19(79.2%)のレポートに記述されていた。次に多かったのは「救急処置及び救急体制」で18(75.0%)、「保健室の運営」が17(70.8%)であった。「伝染病の予防」は最も少なく、記述されていたのは5(20.8%)レポートのみであった。

3. レポートに記述された「感想・考察」の内容

レポートに記述された「感想・考察」の内容を表2に示した。

レポート中の「感想・考察」から抽出された学びの内容は、[保健室見学による学び]、[保健室見学の意義と今後への活用]の2つの大カテゴリに分類された。前者では126文脈単位に分割され、14の小カテゴリが抽出された。また、後者では25文脈単位に分割され、3つの小カテゴリが抽出された。以下、大カテゴリを[]、小カテゴリを《 》、学生の実際の記述を「 」で示す。

[保健室見学による学び]では、《養護教諭は一人一人の子どもと向き合い、子どものために働く仕事》であることに関する記述が最も多く、21文脈単位が抽出された。具体的な内容は、「子どもの健康を考えて、子どものために働く」、「現代ならではの問題(いじめ、不登校、喫煙、避妊など)に対して生徒一人一人と向き合う」、「一番大切なことは、生徒に寄り添って何があっても生徒の味方であること」等であった。

次に多かった記述は、《成長する児童・生徒の健康管理に関わる養護教諭の存在の大切さ》であり、20文脈単位が抽出された。「子どもたちに将来的な健康観を育ませる」、「学校における母親のような存在」、「学校全体の健康管理と保健衛生管理の中核」等の記述がみられ、学生は養護教諭の存在の大切さを実感していた。

また、学生は《養護教諭の仕事の意外な多さ・困難さ》も実感し、「自分が考えていた養護教諭の仕事が実際の養護教諭の仕事のほんの一部分であることを知った」、「多くの生徒、先生に対して時には一人で養護教諭の仕事をごなしていかなければならない重圧は大変なもの」等の17文脈単位に記述していた。さらに、「養護教諭とは、他の先生や地域の方としっかり向き合っていくことも大事な仕事であるのだと気づいた」等、《連携の必要性(学校内、地域、家庭)》が13文脈単位であった。一方、「子どもの成長に関わるのは楽

しい」と語る養護教諭の姿から《養護教諭の仕事のやりがい》を感じ取り、「難しい仕事ではあるが、そのぶん喜びややりがいも大きい」、「養護教諭という仕事に誇りと使命感を持っておられると感じた」等の記述が12文脈単位にみられた。

養護教諭の活動を実際に見ることにより、学生は「保健指導はもちろんのこと、家庭や地域と連携して健康づくりを推進していくなど、専門職としての職務の内容は本当に幅広い」、「学校における健康のスペシャリストとしての自覚を持って職務を遂行する必要がある」と記載し、《養護教諭は健康に関する専門職》であることを学んでいた。さらに、「子どもの病気、価値観、考え方も変化していく、養護教諭はその変化に敏感に反応し適応していかなければならない」等と感じたことから、《自己研鑽の必要性》が挙げられ、「医療知識を十分に兼ね備えた養護教諭が必要」、「心理学がわからないといけない」等の記述もみられた。

そして、「保健室は児童が安らぎを感じるができる場」、「保健室は教室という人がたくさんいる場所から少し離れた位置に存在し、生徒にはその距離が必要」のように《保健室は児童・生徒の居場所》であると同時に、「どこまで生徒の来室を許可するのか」といった《居場所としての保健室運営の難しさ》も感じていた。学生は、「養護教諭に最も必要なことは、感性を若く持って生徒を信じること」、「人間だから合う、合わないがあるけれど、話をしてみる」と語る養護教諭から、《児童・生徒と信頼関係を築くことの重要性》や《コミュニケーションの必要性》を感じ取る反面、「教員や保護者の中には養護教諭を軽視し、教師としてみてくれないときにはとても辛い思いをしている」等、《養護教諭に対する他の教員や保護者の理解の乏しさ》がある現実も学んでいた。

[保健室見学の意義と今後への活用]では、学生は「生徒と教師」という枠がない状態で養護教諭の先生と話したのは初めてで、とても新鮮だった」、「養護教諭の特殊性を理解することが出来た」、「自分が保健室でやってもらっていた様々なことが養護教諭の仕事であったことに初めて気づいた」等、事前学習としての《保健室見学の意義》を見出し、14文脈単位に記述していた。

そして、《養護教諭の仕事への関心の高まり》に関する記述が6文脈単位抽出され、「人と触れ合うことのできる仕事でとても魅力的だった」、「一層養護教諭になりたい思いが高まった」等と述べていた。さらに、「インタビューで学んだことを頭に置いて、これからの養護教諭の授業を受けていきたい」、「今回の体験を

これからの実習などに役立てていきたい」等、《保健室見学の今後への活用》についての記述が5文脈単位にみられた。

考 察

授業「養護概論」の事前学習として行った保健室見学と養護教諭へのインタビューのレポートに記述された内容を分析した結果から、事前学習の効果と今後の課題について考察する。

1. 事前学習の方法

小学校3校、中学校8校、高校13校と高校の保健室への訪問が最多であり、学生にとって、卒業まもない母校の高校には知っている教員が多く、身近で訪問しやすかったのではないかと考える。訪問時間は、1校最短20分から最長630分であり、差がみられた。堀内ら²⁾は、授業に保健室見学を取り入れる試みにおいて、見学時間は大学の1授業時間と同じ90分としている。保健室見学による学生の学びの内容を明らかにし、訪問先の養護教諭の業務や負担を考慮して、事前学習として意義のある訪問時間の設定について検討する必要があると考えられる。また、20分という短い訪問が見学として位置づけられるのか、保健室見学の内容の統一も今後の課題と考える。

2. 事前学習の効果

「感想・考察」から抽出された学びの内容から、学生は、養護教諭の仕事の多様性や困難性とともによりやりがいを感じ取ることで、漠然としていた養護教諭像がより鮮明に具体性をもって思い描けるようになっていた。相原ら⁵⁾は、看護学生の早期体験実習において、それまでの漠然としたイメージが具体的なものとなり、それまで持っていたイメージが現実的なものへと変化したことによって、学生たちは、現実には物事を考えることができるようになり、授業内容がより理解できるため、これが学習意欲の向上につながると述べている。本研究においても、学生は養護教諭の仕事に魅力を感じ、将来目指す思いが高まり、「インタビューで学んだことを頭に置いて、これからの養護教諭の授業を受けていきたい」などと記述したことから、授業「養護概論」の事前学習が今後の学習への動機付けや意欲の向上につながっていることが伺えた。

[保健室見学による学び]では、《養護教諭は一人一人の子どもと向き合い、子どものために働く仕事》であり、学生は《成長する児童・生徒の健康管理に関わる養護教諭の存在の大切さ》を実感していた。学生は、実際に児童・生徒とかわる養護教諭の様子から、保

健室の物理的な環境より養護教諭の役割や保健室の機能・運営を学んでおり、堀内ら²⁾の研究と同様の結果が得られた。各校の養護教諭が自らの保健室運営方針を学生に伝えたことも養護教諭の役割としての保健室の機能・運営のイメージを広げ、養護教諭の活動の理解を助けることにつながっているのではないかと考える。《養護教諭の仕事の意外な多さ・困難さ》では、学生は、児童・生徒として見ていた養護教諭の仕事はほんの一部分に過ぎなかったことを実感していた。多くの学生は、健康な児童・生徒として学校生活を送ることから、今までに養護教諭の広範な仕事内容を知る機会は少なかったと考えられる。養護教諭の仕事の実際を知り、意外な多さ・困難さに気づくことで学生は養護教諭の活動として理解していなかった部分に目を向けられ、さらに学びを深めようと動機付けられる可能性があると考えられる。《養護教諭の仕事のやりがい》では、学生は養護教諭の語りから、仕事に対する誇りと使命感等を感じ取っていた。実際に保健室に来た生徒の話の聴き、生徒の笑顔を見たことで、やりがいを自ら体験した学生もあった。学生が養護教諭の仕事のやりがいについて見る・聴くことと、接することで得た学びは、実感を伴い、その後の授業での学習効果を高められるのではないかと考えられる。

[保健室見学の意義と今後への活用]では、学生は、児童・生徒とは違う立場で養護教諭と話したことに新鮮さを覚え、「養護教諭の特殊性を理解することが出来た」と述べ、《保健室見学の意義》を見出した。堀内ら²⁾は、養護教諭養成課程の学生として保健室見学をするということは、一時的にせよ養護教諭の立場で保健室を見るという体験ができたと述べている。学生が大学入学時に抱いていた保健室や養護教諭のイメージは児童・生徒の立場から見たものと考えられる。事前学習によって、実際に養護教諭側の立場から保健室を見学することは、学生の養護教諭や保健室に対するイメージづくりに大いに役立ったと考える。そして、学生は、養護教諭の仕事は「人と触れ合うことのできる仕事でとても魅力的」、「一層養護教諭になりたい思いが高まった」と述べ、養護教諭像を鮮明に思い描けるようになったことが、《養護教諭の仕事への関心の高まり》につながったといえる。さらに、「今回の体験をこれからの授業や実習に役立てたい」という《保健室見学の今後への活用》の意向が述べられ、学習意欲の向上が伺えた。

今回の分析においては、学生の学びの内容を広く抽出することをめざしたため、訪問時間や校種による検討は行わなかった。しかし、訪問時間や校種によって、

レポートの記述量や内容に違いがある可能性も考えられる。訪問時間や校種をレポートの記述量や内容とクロス検討し、より効果的な保健室見学の考案に生かすことは今後の課題としたい。

さらに、事前学習の効果については、授業終了後の学生の学びと合わせて考え、学生の達成度にどのように影響していたのかについての検討が必要と考えられる。

3. 事前学習を生かす授業展開

今回の事前学習では、学生が実際に保健室に身を置き、養護教諭に直接かかわり、また、養護教諭と児童・生徒とのかかわりに接する機会をもつことによって、種々の養護教諭の職務の実際を学んでいた。

学生のレポートに記述された養護教諭の職務内容のうち「健康相談活動」が多かったのは、養護教諭自身が相談活動を重視している¹⁾現状が反映していると考えられる。一方、「伝染病の予防」が少なかったことについては、中桐ら⁶⁾の養護教諭の執務に関する実習においても、実習時期が6月あるいは9月である関係で「伝染病対策」は経験なしが多いと報告されている。よって、本研究の結果も、今回の事前学習の時期が伝染病予防により重点がおかれる夏季や冬季ではなかったことが影響しているのではないかと推察される。また、学校現場において感染予防に対する養護教諭の意識が非常に希薄である⁷⁾ことも関連していると考えられる。学校保健において唯一医学の専門知識をもち、児童・生徒の心身の健康を守る立場にある養護教諭は医学の動向を把握し、常に新しい情報をキャッチする必要がある⁷⁾。養護概論では「学校環境衛生・感染症予防」に関する授業を行っている。この授業の中で、学生の感染症予防に対する意識づけを行う必要性が確認された。

さらに、学生は《養護教諭は健康に関する専門職》であることを学び、「医療知識や心理学を学ぶ必要がある」と記述し、《自己研鑽の必要性》を感じていた。保健室での相談活動が重要視されている中、久保田ら⁸⁾は、健康相談活動の対象は背景要因に心因性症状があるものなので、心身医学の基礎知識は必要不可欠であると述べている。また、長谷川ら⁹⁾の研究では、健康相談活動の資質・能力を高めるための研修として、対象となった養護教諭の23.8%が「心理学・医学的な知識の習得・研修」が必要、そして、22.0%が「カウンセリングの理論と方法」が必要と回答している。よって、今後、養護教諭に求められる資質として心理学・医学的な知識の重要性が高まっていることを考慮し、学生がこれらの知識を身につけた養護教諭をめざして

自己研鑽する意欲を授業の中で生かし、伸ばせるような工夫が必要と考える。

堀内ら²⁾は、養護教諭関連科目の授業で保健室見学についての班学習を行っている。また、皆川ら¹⁰⁾は、グループワークの学びとして、未経験の情報をグループメンバーから取り入れたことによって視野が拡大されたことを挙げている。今回の保健室見学について、養護概論の授業でグループワークを行ってお互いの情報を共有すると視野が広がり、養護教諭および保健室についての学びがより一層深まるであろう。また、保健室見学によって思い描いた自らの養護教諭像について話し合うことにより、学習意欲を伸ばしながら養護とは何かを考えていく方向に授業を展開できるのではないかと考える。

結 論

授業「養護概論」の事前学習として、保健室を見学し、養護教諭にインタビューを行った学生の学びについて、レポートの分析により、以下の結果を得た。

1. 学生が記述した養護教諭の職務内容のうち最も多かったのは、「保健指導・保健学習」と「健康相談活動」であり、最も少なかったのは、「伝染病の予防」であった。
2. レポート中の「感想・考察」から抽出された学びの内容を分析した結果、[保健室見学による学び]、[保健室見学の意義と今後への活用]の2つの大カテゴリに分類された。
3. [保健室見学による学び]では、学生は《養護教諭は一人一人の子どもと向き合い、子どものために働く仕事》であること、《成長する児童・生徒の健康管理に関わる養護教諭の存在の大切さ》を実感していた。また、《養護教諭の仕事の意外な多さ・困難さ》を知る反面、《養護教諭の仕事のやりがい》を感じ取っていた。さらに、《連携の必要性(学校内、地域、家庭)》、《養護教諭は健康に関する専門職》であることを学び、《自己研鑽の必要性》では、医療知識や心理学の勉強の必要性を感じていた。
4. [保健室見学の意義と今後への活用]では、学生は事前学習としての《保健室見学の意義》を見出すとともに《養護教諭の仕事への関心の高まり》を感じていた。また、《保健室見学の今後への活用》についても積極的な姿勢を示した。

以上の結果から、事前学習は、養護教諭の存在意義、職務の対象、職務内容、仕事の多様性・困難性ととも

にやりがいを理解し、今後の学習への動機付けや意欲の向上につながっていることが明らかになった。また、事前学習の方法の検討、事前学習を生かした授業の展開の工夫が今後の課題と考えられた。

文 献

- 1) 山名康子, 中園伸二, 岡田 潔ほか: 養護教諭の職務と養成に関する調査研究, 学校保健研究, 44, 181-190, 2002.
- 2) 堀内久美子, 下村淳子: 養護教諭養成課程1年生の授業に保健室見学をとり入れる試み, 日本養護教諭教育学会誌, 5(1), 69-75, 2002.
- 3) 文部科学省養護教諭中央研修会資料(平成13年度).
- 4) 舟島なをみ: 質的研究への挑戦, 42-53, 医学書院, 東京, 2002.
- 5) 相原優子, 勝山貴美子, 渡邊順子ほか: 看護学生が捉えた早期体験実習における体験の意味, 日本看護医療学会雑誌, 7(2), 27-35, 2005.
- 6) 中桐佐智子, 門田美千代, 土井さや子ほか: 養護実習における実習内容と学生の達成感の検討, 吉備国際大学保健科学部紀要, 10, 1-10, 2005.
- 7) 榎 直美, 宮城由美子, 大庭優子ほか: 養護教諭養成課程における看護能力の育成 - 保健室における感染予防の問題点と今後の課題 -, 九州女子大学紀要, 39(2), 13-22, 2002.
- 8) 久保田かおる, 三木とみ子: 健康相談活動の実践方法に関する研究 - 心身の相関理解と養護教諭の資質・能力を生かした健康相談活動の在り方の研究 -, 女子栄養大学紀要, 35, 61-69, 2004.
- 9) 長谷川亜紀, 門田新一郎: 養護教諭の健康相談活動に関する調査研究 - 中学校の養護教諭を対象として -, 教育保健研究, 14, 73-81, 2006.
- 10) 皆川敦子, 北村真弓, 三好陽子ほか: 早期体験実習における看護学生の学び - 早期体験実習後におけるレポートからの分析 -, 日本看護医療学会雑誌, 8(2), 33-43, 2006.

(受付 2007年9月4日)